



小山 高正 議員



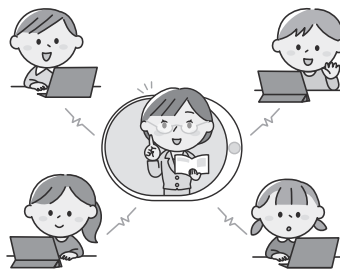
コロナ禍における教育について

**問** ①オンライン授業実施の際の問題点は何か。また、実施した実績を不登校児童の支援に活用できないのか。②発達性読み書き障がい児童への支援の現状はどうなっているのか。また、症状に特化した教員研修の実施を求めるが対応できるか。

**答 (教育長)** ①家庭により情報モラルやクローズドブックの使用頻度に違いがあり、保護者への

※ デイジー教科書…内容をデジタル化して文字の拡大・色強調・音声再生などを同時に行える教材

啓発やルールの明確化が課題である。ICTを使った授業についての出席扱いの要件は7つあり、ICTを活用した学習活動のみでは出席扱いにすることは難しい。学習意欲や成果は、通知表等で評価を伝えられるよう模索する。②市内全ての学校にデイジー教科書<sup>(※)</sup>を導入した。専門性を持った教員育成のため、講師を招聘してでも研修を実施し、一人一人の事例に対処できるようにしていきたい。



コロナ禍における子どもの貧困問題について

**問** ①子どもの貧困に該当する市内の児童数と割合はどれくらいか。②貧困の連鎖を断つという観点からの質問になるが、特定妊婦に該当する妊産婦への支援状況はどうなっているのか。

**答 (市長)** ②一人一人の実情に合わせた対応が望まれる。特定妊婦も含んだ要支援妊産婦の方たち個々への、重層的・包括的な支援を継続していくことが重要と考える。

**答 (福祉部長)** ①約3,000人が該当し、18歳未満の人口の約14%である。②多機関連携のもと、出産・育児への切れ目のない支援をしている。



古川 一美 議員



未成年者へのワクチン接種について

**問** 古河市では12歳以上の接種も始まり、早い対応で関係者のご尽力に感謝申し上げます。一方、副反応を心配している保護者の声も聞く。重症化率の低い子どもへの接種に対しては慎重な専門家の意見も聞かれる。厚生労働省によると9月3日までに接種後死亡と報告された事例は1,155件ある。ワクチン接種は任意であり自己判断による。特に未成年者の場合、成人より

配慮が必要とされる。①未成年者の接種・予約状況②案内で特に配慮している点について伺う③接種判断ができるよう、ワクチンのメリット、リスク両方の客観的データに基づく情報提供を求めるが、市長の所見を伺う。

**答 (市長)** ③若い世代の感染者が増加傾向にある状況の中、今後未成年者が接種する際は、ワクチンについて正確で分かりやすい情報を提供し、理解したうえで接種していただくことは最も重要であると考えている。副反応のリスク等に関して、古河市独自のデータは何もないため、厚生労働省のデータを参考に、メリット、リスクについて広く情報提供をできるように進めていく。

**答 (健康推進部長)** ①未成年者のワクチン接種状況は、9月12日現在、12歳以上20歳未満の方1万297人のうち、1回接種した方は1,388人で13.5%、2回接種した方が323人で3.1%である。②未成年者への案内で特に配慮している点は、インターネットやLINEを活用したこと、また、中学生に対しては、教育委員会と連携を図り、各学校の連絡メールを活用し、ワクチン接種の案内をした。

年齢	ファイザー社製ワクチン			モデルナ社製ワクチン		
	副反応 疑い 報告数	うち重篤		副反応 疑い 報告数	うち重篤	
		報告数	うち死亡 報告数		報告数	うち死亡 報告数
10代	210	26	1	229	18	0
20～30代	7,104	788	15	1,070	115	3
40～50代	8,147	933	39	552	81	8
60代以上	5,915	2,234	771	220	38	4
不明	5	3	0	4	0	0
合計	21,381	3,984	826	2,075	252	15

年齢別・副反応疑い報告状況  
(R3.8.22 報告分まで)  
厚生労働省ホームページより